

# 年間業績発表 棚卸資料

部門 入所 / 通所 / 訪問  
PT / OT / ST  
コアカリ( )

当施設ハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後活かすために実施します。ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。評価結果を下記にまとめてみてください。

## 《年間目標》

入所者に対して適切な評価を行い、誤嚥・窒息、誤嚥性肺炎リスクに対して早期発見・予防に努める

## ●構造 structure

- ・ST 常勤3名 非常勤3名 合計6名
- ・入所・通所・訪問の各部門へ配置
- ・検査体制として、失語症の利用者様に対しSLTA検査実施
- ・嚥下障害、構音障害の利用者様に対し発声発語器官評価としてAMSD検査実施
- ・機能評価以外に食事評価実施
- ・嚥下障害の利用者様に対し月1回 嚥下内視鏡検査(VE)、嚥下診療実施。
- ・騒音計による声量検査や咳テストもキッドがあるが今年度も取り組むことができなかった為、今後取り入れていきたい。

## ●過程 process

- ・今年度は育休から常勤1名戻り常勤3名体制となった。
- ・AMSD、食事評価後はST必要度を低・中・高と設定。
- ・各評価の必要度をみて介入頻度を決定し介入表にST介入頻度項目を追加。
- ・STの必要性が高い方は短期集中期間、集中的にSTリハを行う。短期集中終了時期の3ヶ月後に再評価を行った。
- ・機能的データの収集 AMSDの評価項目 29項目のデータベースは引き続き入力。
- ・訪問STの拡充を図る為に常勤1名が各ケアプランセンターへの営業を行った。
- ・見学実習生 1名、評価実習生 2名受け入れ学生指導を行った。

## ●結果 outcome

- ・AMSD検査では初期評価時は2単位設定とし、再評価では利用者様の状態に合わせて2単位設定もしくは1単位設定とした。
- ・データベース入力は比較的スムーズに入力は行っていたがST介入頻度に関しては情報連携が滞ってしまう事があった。
- ・STが日中不在となることがあり、緊急性の高い評価が出来ない場合があった。
- ・営業は南港と阿倍野区の2回実施した。

## 《次年度持ち越し課題》

- ・評価～ST介入頻度設定までスムーズに行えるようになる。
- ・ST会議内で勉強会を実施しST全体の質を高め
- ・営業回数を増やし訪問ST拡充に努める。